

令和4年度 観光ルート開発モデル「JR青梅線地酒列車モニターツアー」
事業実施報告書概要版

1 事業概要

●事業期間：令和4年7月16日～令和5年2月28日

●対象地域：東京都多摩地域（特に青梅線沿線エリア）

●事業目的と内容：

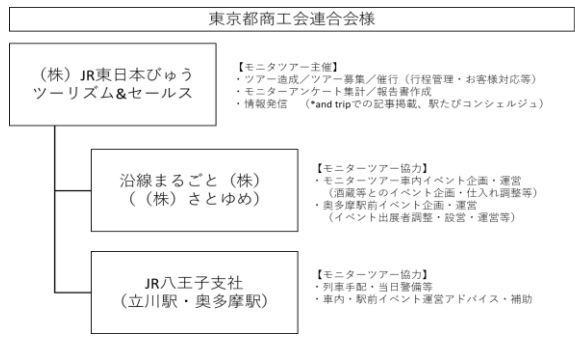
- ・西多摩エリアの交通手段として親しまれてきた青梅線沿線において、沿線の豊かな自然と、その中で育まれてきた酒造り、食の魅力に着目し、新たな観光ルートの開発を行う。
- ・沿線酒造と連携した団体列車モニターツアーを企画・実施することで、沿線事業者の魅力発信を行い、新たなファンの構築を目指すだけでなく、沿線事業者との連携強化によって、今後の展開につなげる。

→JR青梅線（立川～奥多摩間）で貸切の団体臨時列車を運行し、車内で沿線の地酒やおつまみを味わいながら、多摩の豊かな食や自然の魅力を楽しむモニターツアーを3回実施。
→奥多摩駅では、地元観光協会や事業者と連携したイベントを実施。
→アンケート調査を実施し、調査内容を取りまとめて今後のツアー企画につなげる。

●事業スケジュール



●事業運営体制



2 実施内容

●ツアー日程/募集対象者・参加人数

- 1回目：2022年10月8日（土）：関係者116名（定員200名）
2回目：2022年11月18日（金）：一般募集138名（定員156名）
3回目：2023年1月27日（金）：一般募集107名（定員124名）

●ツアー行程

行程		食事
日 帰 り	※立川駅「駅たびコンシェルジュ立川」前 7時45分～8時45分受付	
	2番線 立川駅(青梅線沿線・奥多摩地酒列車・普通車指定席/石川酒造(拝島駅)、9:15発 受付時に配布した日本酒(本とおつまみ(酒)のペアリング)	朝：一
	田村酒造場(福生駅)、小澤酒造(沢井駅)の3蔵の地酒飲み比べ(奥多摩駅 11:35着 地元が各専門を回って酒蔵・日本酒の製法と試飲を実施)	昼：一
	***** 田奥多摩駅前イベント(地酒や地元の名産品のお買い物・約60分)*****	タ：一
	奥多摩駅(青梅線沿線・奥多摩地酒列車・普通車指定席)立川駅 12:35発 日本食シェフによるおつまみと地酒のペアリング 青梅線の車窓観光/日本酒のお土産配布 14:12着	

●車両

1回目・2回目：185系 / 3回目：E257系

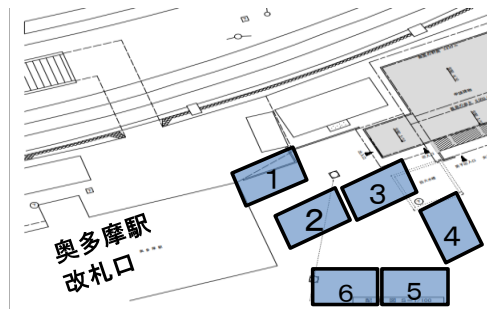
●配布物

受付時：お猪口×3酒造分、日本酒300ml×2本、おつまみ、水
車内：試飲、地元食材特製おつまみ、お茶、日本酒720ml



●奥多摩駅前イベント

- 毎回6店舗に出店をいただいた。
・地酒販売・試飲：東京都酒造組合
・飲食出店：ワザビ食堂、おうめ豚料理、だし巻き玉子など
・青梅物産：まちの駅青梅



●宣伝展開

・ツアー募集「日本の旅、鉄道の旅」ページ



・*and trip.記事 PV数3,300



<他の宣伝媒体>

- ・「日本の旅、鉄道の旅」メールマガジン
- ・プレスリリース
- ・twitter
- ・田村酒造場HP
- ・多摩PON

3 実施結果

●当日の様子



▲酒樽フォトブース



▲石川酒造 試飲



▲参加者の様子

▲受付



▲田村酒造場 説明



▲奥多摩駅・試飲イベント

▲185系列車



▲小澤酒造 説明



▲奥多摩名産・わさび食堂

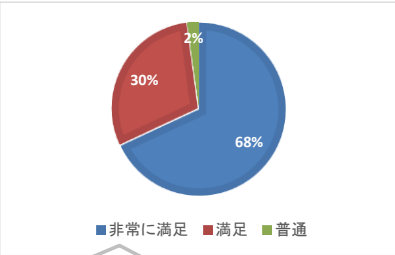
●アンケート結果

1. 参加者属性

- ・年代：20～80代まで幅広い方に参加いただいた
- ・性別：男女比6：4
- ・居住地：東京都6割。続いて、埼玉、神奈川、千葉の順で1都3県で99%を占める
- ・参加形態：夫婦、友人知人などが各3割づつでトップ

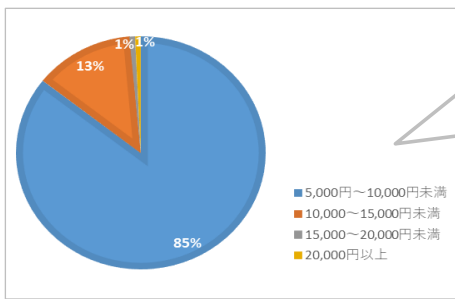
2. ツアー全体の評価

非常に満足と満足を含めると98%



- <お褒めの言葉>
- ・非常に贅沢なツアー。是非JRでのツアー企画を期待
 - ・普段なかなか手に取ることが出来ない地酒を試飲や酒造の方とお話が出来て良さに気づくことが出来た
- <改善のご意見>
- ・奥多摩駅での停車時間がもう少しあると良い
 - ・酒造見学が出来たらよかった

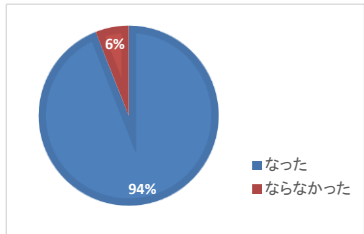
3. 有料ツアーの金額感



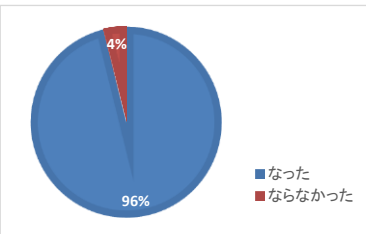
- 5,000円～10,000円未満
- ・手頃さと近場な点を訴求するため
- ・日帰り旅行は1万円以内が妥当
- ・奥多摩にお金がかかる仕組みにする必要がある
- 10,000円～15,000円未満
- ・1日楽しんでお土産がついているので賢沢
- ・奥多摩での観光があれば2万円でも良い
- ・特別な車両に乗れるし、お酒や食べ物も十分
- 15,000円以上
- ・日本酒の値段とふるまい方を考えるとこれくらい
- ・内容がとても良かった

4. 多摩エリアへの関心

・酒造へ足をはこびきっかけになったか



・多摩エリアのお酒に興味を持ったか



4 総括

●事業の成果

・「列車で奥多摩の地酒を楽しむ」コンテンツの可能性

今回、モニターツアー第1回目については関係者のみで実施し、第2回・第3回目については「日本の旅、鉄道の旅」ホームページで一般募集を行った。一般募集については、2回とも発売開始から1時間足らずで満席となり、第2回目は400名以上、更に第3回目については600名以上のキャンセル待ちが発生するなど、大変多くの方に注目いただいた。

・奥多摩地域の魅力発信

多摩地域のような関東近郊にもわさび栽培が可能な程のきれいな水があり、それを使用した美味しい日本酒を作ることが出来るという事を、本ツアーを通じて多くの方に実感していただいた。本ツアーをきっかけに、奥多摩エリアへの関心を寄せてくれるきっかけとなったことがアンケート結果にも現れた。

●今後の課題・展望

・有料化に向けて

今回は東京都商工会連合会の予算を活用し、無料のモニターツアーを実施したが、今後有料ツアーとする場合は集客を見込める適正価格と内容を検討する必要がある。今回同様の形式で実施した場合、1名あたり販売価格3万円と算出される。だが、アンケート結果にもある通り、「今後有料販売する場合、いくらなら参加したいか」という設問に対し、【5,000円～10,000円未満】が85%、【10,000円～15,000円未満】が13%を占めた。結果から1名あたり15,000円に価格を抑えるために、車両席数に対して9割程度埋めるなどの工夫も必要となる。

・ツアー形態の変更

今回と同じ形態で有料ツアーにする場合は、今回の無料モニターツアーと比較されるため難しいだろう。そのため、日帰りではなく奥多摩近隣での宿泊や、桜や紅葉など季節ごとの観覧イベントなどを組み込んだツアー形式で、青梅線以外の路線での実施、人気列車を仕立てて鉄道ファンと一緒に取り込むなど、有料化に見合う形での検討が必要と考えられる。